

学位プログラム DP レビュー

2023 年度 公共社会学科

1. 現状の説明

①授業実施評価レポート

成績評価アンケートは、全体的に良好な結果であり、本学科の DP にそった授業が実施されていると評価できる。教務・共通教育部会からは、全体的に良好な回答結果であることと、人数はごく少数だが他学年に比べ 2 年生で「透明性が不足している科目」「客観性が不足している科目」、他学年では他項目に比べ「透明性が不足している科目」の「そのような科目が一つ二つあった」の割合が相対的に高くなっていることの指摘があった。成績分布については、科目全体で一定のバランスが取れており、成績に「不可」が多い科目もなく、大きな問題はなかった。教務・共通教育部会からは、受講者数 10 名を超える科目において成績 S が受講者の 3 分の 2 を超えていた 2 科目と、受講者数が 5 名未満であった 5 科目について、指摘があり、検討を求められた。これらへの対応方策については後述のとおりである。

②DP アンケート

DP アンケートの結果は、5 点満点での平均値が全ての項目で 4 以上であり、全 13 項目の平均値も 4.2 であることから、4 年間の学習成果について学生から一定以上の評価が得られ、学科 DP にそった教育が行われていると評価できる。教務・共通教育部会からは、全体的に良好な結果が得られている点と、地域課題や社会問題、異なる文化や価値観への理解に関する項目が高い値となっている点が評価された。一方で、「地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった」の項目では、他項目よりは若干低い値 (4.0) となっている点の指摘があった。この点への対応方策は後述する。

③進路・資格試験・留年・退学状況

卒業生の進路では、55 名の卒業生のうちの 52 名の就職希望者について就職率 96.2%となっている。そのうち 50 名の就職先は「民間企業・団体等」が 35 名 (70.0%)、「官公庁等」が 10 名 (20.0%)、「福祉施設 (機関・団体)」が 3 名 (6.0%)、「病院・医療施設」が 1 名 (2.0%)、「教員」が 1 名 (2.0%) で

ある。このほか大学院・専門学校等の進学者が2名いる。資格について、公共社会学科では中学校教諭一種免許状（社会）取得者が4名、高等学校教諭一種免許状（公民）取得者は4名である。昨年度に続き、近年の傾向として「官公庁等」の就職者比率が高い傾向があった。この点は、民間企業への就職とあわせ、「現代社会の多様な課題に対応するため、地域社会と国際共生に焦点をあて、公共性に根ざした社会問題解決能力に秀でた人材を育成する」という学科の教育研究上の目的と一致していると考えられる。留年生は4名と昨年度5名からは減少したが過去4年と比較し大きな変化はなかった。退学者は4年次（留年者含む）1名と昨年度3名からは減少したが、この点も過去4年から大きな変化はなかった。進路・生活支援部会からは学科ではなく大学全体に対し、不本意な退学を避けるための支援や学習の遅れによる留年者数を減少させる支援を進める必要性が指摘されている。この点への対応方策については後述する。

2. 2022年度対応プランの結果

①の成績評価について、1年生に対しオリエンテーションや授業の中で、大学での成績評価のあり方や目的に関して丁寧に説明を行った。結果、前述のように成績評価アンケートで良好な回答結果を得られた。成績分布については、コース会議で成績分布の情報共有と点検を行い、コース教員を中心に各自のシラバスや成績評価方針の点検を行った。受講者数については、設定可能な範囲で時間割上の配置を工夫し、オリエンテーションなどで科目紹介と履修奨励を行ったが、受講者数が少ない科目が複数あった。

②のDPアンケートについては、全体的に良好な評価を得ていたが、地域課題や社会問題への背景や対応策に関し説明することや主体的に取り組むことには課題もみられた。そこで、地域課題や社会問題に関する教育について、教員間で情報共有を図り、各科目で適宜改善に向けた取組を進めた。結果、全体的に高い評価を得ることができた一方、「地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった」という「主体性・多様性・協働生」に関する項目では改善の余地がある結果となった。

③の卒業生の進路については、全学的な民間企業・行政との連携強化や就職活動の情報提供の体制整備とあわせ、学科においても就職支援に関する複数のプログラムを継続して行うことができた。留年・退学については、教務入試班と連携し、GPAが低い学生を中心に教員による面談や支援を行い、必修科目の授業参加が滞っている学生への連絡や支援を継続して行った。

3. 今回の課題と対応プラン

①のうち、成績評価では、全体的に良好な結果が得られていることから、コースで全体的な成績分布や受講者数の情報共有と点検を継続して行い、コース担当教員を中心に各自のシラバスや成績評価方針の点検を行う。また、専門科目の履修が増える2年生を中心に各科目やオリエンテーションにて、大学の成績評価の方法や目的についての説明を行う。受講者数の少ない科目については、設定可能な範囲で時間割上の配置を工夫し、オリエンテーションなどで科目の内容紹介と履修奨励を行う。また、2022年度入学生からの新カリキュラムが2024年度に3年度目になり、受講者数の情報が揃い始めるため、受講者数の点検とカリキュラム上の科目の位置づけの検討を進める。

②のDPアンケートでは、全体的に良好な結果が得られており、DPにそった教育を継続するとともに、地域課題や社会問題に主体的に取り組む能力や意欲を高める教育を行うため、教員間で情報共有を図り、個々の科目で改善に向けた取組を進める。具体的には地域課題や社会問題に対する対応策の事例紹介やそれらに関し学生が考察、説明や活動を行う機会を増やすことなどが考えられる。

③の進路、資格試験については、学科のDPにそった状況にあると考えられる。全学的な就職支援の整備とあわせ、学科においても就職支援に関する複数のプログラムを継続して運営する。留年、退学の状況については、GPAが低い学生に対する面談や必修科目の授業参加が滞っている学生への連絡を継続して行い、不本意な留年、退学を避けるための支援を行っていく。

4. DP 達成状況のまとめ

以上、本学位について、成績評価、学生による評価、進路の状況から判断すると、DP全体について一定以上の達成状況にあると考えられる。「主体性・多様性・協働性」の項目においては改善点も見出されるため、この項目についての教育の強化も視野に入れながら、学位プログラムの運営に継続して努める。

添付資料

- ・DP アンケート
- ・進路・資格試験・留年・退学状況（資料はこちらをクリック）
- ・授業実施評価レポート

公共社会学科ディプロマ・ポリシーアンケート結果報告

1.ディプロマ・ポリシーアンケートの結果

質問項目	平均値
1. 社会学を中心とする社会科学の専門知識が身についた。	4.1
2. 異なる文化や価値観を、客観的に理解できるようになった。	4.4
3. 地域課題や社会問題を、その歴史的背景や現状の多様性をふまえて理解できるようになった。	4.5
4. 人間と社会に関連する幅広い諸科学の知識が身についた。	4.3
5. 物事について、根拠をふまえて意見する力がついた。	4.3
6. 物事について、公共性の観点をふまえて考えることができるようになった。	4.3
7. 自分の考え・気持ちを、他者に伝わるよう適切に説明できるようになった。	4.2
8. 地域課題や社会問題の背景を論理的に説明し、それへの対応策を説明できるようになった。	4.1
9. 目標に向けて自分で考え、主体的に活動できるようになった。	4.2
10. 様々な地域課題や社会問題、または異なる文化・価値観に対して、関心をもつようになった。	4.3
11. 地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった。	4.0
12. 資料やデータを収集する技法が身についた。	4.1
13. 調査研究を行う際に、適切な方法により分析することができるようになった。	4.2
全項目平均値	4.2

自由回答

1. 社会でおこっている事柄について理解できるようになった。
2. 課題の背景や多様性について考える力、様々な側面を考える癖は身についた。調査については4年間で1度しか行えなかったためあまり知識が定着しなかったように感じる。
3. 社会調査実習の授業では実践的に社会調査について学ぶことができよかったですと思います。
4. 専門的な知識について十分に学ぶことが出来た。
5. 非常にレベルが高く、しかし分かりやすい教育をありがとうございました。社会学は直接的に就職に結びつく学問ではないですが、これからの自分の人生を生きる上で必要な価値観が身につき人生が豊かになりました。
6. コロナでのリモートの時、課題で文章を書かせるだけ書かせて、フィードバックがなかったのが辛かった。どこか間違っていないか指摘してほしい。

2.結果について

1. 全ての項目で平均値が4を超えており、全13項目の平均値も4.2となっていることから、4年間の学修の成果について、学生からの一定の評価が得られていると考えられます。
2. 質問項目2.3では、地域課題や社会問題、異なる文化や価値観に対する理解について、相対的に高い値が得られています。一方で、質問項目11「地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった」は、他項目と比べると相対的に低い値となっています。
3. 前項の改善について、各科目の教育の中で、地域課題や社会問題への理解や関心を引き続き高めながら、実際の取組の紹介や、学生による地域課題や社会問題への対応への考察や活動の機会を増やすことなどが考えられます。

授業実施評価レポート

2023 年度 人間社会学部地域社会コース

1.2022 年度の状況

①成績評価アンケート

公共社会学科学生を対象とした成績評価アンケートの結果は、「そのような科目がいくつもあった」という回答は0であり、「そのような科目が一つ二つあった」という回答も各学年で多くて1割程度にとどまっており、全体的に良好な回答結果であった。教務共通教育部会からは、全体的に良好な回答結果であるものの、人数はごく少数ではあるが、他学年に比べると2年生で「透明性が不足している科目」「客観性が不足している科目」、他学年では他項目に比べて「透明性が不足している科目」の「そのような科目が一つ二つあった」の割合が相対的に高くなっているという指摘があり、この点について、検討を求められた。

これを受けて、コース担当者会議で、担当教員間での情報共有と点検を行った。まず、全体的な回答結果については、良好であり、大きな問題はないことを確認した。上記の指摘については、専門科目の履修が増える2年生科目を中心に、各科目の中で担当教員から成績評価の方法や目的について、さらに丁寧に説明を行うこと、学生全体に対して学年初めのオリエンテーションにて、大学での成績評価の方法や目的について、説明を行うこととした。

②成績分布及び受講者数

成績分布について、全体の学科別成績分布では一定のバランスが取れており、「不可」が多い科目もなく、大きな問題はなかった。ただし、受講者数10名を超える科目において成績Sが受講者の3分の2を超えていた2科目と、受講者数が5名未満である5科目について、教務共通教育部会から評価方法や成績評価方針の確認が求められた。

これを受けて、コース担当者会議において、全体の成績分布及び受講者数と、成績Sが多い科目についての情報共有と検討を行った。その結果、成績Sが多い科目について、非常勤講師担当の「暮らしの経済学」は2023年度から担当教員が交代するため、継続して成績分布を点検することとした。また、非常勤講師担当の「社会教育論」については、担当教員に状況と次年度以降の対応を確認した。具体的には、本科目は2022年度は、最終レポートを中心とした成績評価方針に対し、基礎知識のみならず参考文献の引用などによって自身の考えを論理的に記述していた学生が多くSが多かったこと、次年度以降の成績評価は自身で課題設定をさせる設問を用意し論理的思考力の部分で最終試験の難化を予定していることを確認した。

また、受講者数が少ない科目である「国際社会学B」「文化人類学A」「文化人類学B」「CSR（企業の社会的責任）論」「地域社会分析法B」について、以下のように対応することとした。まず、このうち「CSR（企業の社会的責任）論」は非常勤講師の担当教員が2023年度か

ら交代予定であり、受講者数の点検を行うこととした。それ以外の科目については、時間割上の配置が受講者数に与える影響があると考えられ、可能な限りで時間割上の配置の工夫を行うとともに、オリエンテーションなどで科目内容に関する紹介と履修の奨励を行うことが有効であると考えている。くわえて、公共社会学科では 2022 年度入学生から適用の新カリキュラムを開始しているが、これらの科目の受講者数の点検を継続して行い、カリキュラム上の科目の位置づけや内容の検討が必要になると考えている。

③その他

公共社会学科では、2022 年度入学生から適用のカリキュラム見直しを行った。その主な目的は 2 つあり、まず学科の設置目的をカリキュラムとしてより具現化すること、また 2022 年度からの高等学校教諭一種免許状（情報）課程設置に伴う科目群の再編に対応することである。主な変更点として、専門科目を再編し、「基幹科目」、「現代社会課題」領域、「地域社会ネットワーク」領域、「アジア国際共生」領域、「社会調査・情報処理」領域、「関連科目」とした。旧カリキュラムの「公共社会学基礎論」は、社会学の基礎的な知識に関する「基幹科目」と、現代社会の課題やひとの労働・生活に関する「現代社会課題」領域に分けられ、科目の位置づけを明確にした。また、「社会調査・情報処理」領域では必修科目を増やし、学生がこれらの知識と技能をより確実に身につけられるようにしている。

2.2022 年度レポート対応プランの結果

前年度の 2022 年度レポート対応プランを受けて、①成績評価について、継続してコース担当教員間で、全体的な成績分布についての情報共有と点検を行い、各自のシラバスの組立てや作成方針、成績評価方針についての点検を行った。また、入学直後の 1 年生に対して、オリエンテーションの機会やそれぞれの授業の中で、大学での成績評価のあり方や目的について、他学年よりも丁寧に説明を行うことを継続して努めた。その結果、上記のように成績評価アンケートの結果では、良好な回答結果を継続して得られた。

②受講者数の少ない科目については、2022 年度入学生からの新カリキュラムが開始したことから、まずはこれらの科目の受講者数について点検し、科目の位置づけや内容についての検討を行った。これらの科目については、時間割上の配置を非常勤講師など担当教員の協力を得て前年から移動するなど設定可能な範囲で工夫するとともに、オリエンテーションなどで科目に関する紹介と履修の奨励を行った。その結果、受講者数が少ない状況が改善した科目もある一方で、新たに受講者数が少ない状況が見られた科目や継続して受講者数が少ない科目もあった。2022 年度は新カリキュラムの 2 年度目であり、今後は新カリキュラム上でのこれらの科目の受講者数の点検と科目の位置付けの検討を行うことが重要になると考える。

3.対応プラン

- ①成績評価については、全体的には良好な結果が得られていることから、今後もコースにおいて、全体的な成績分布や受講者数についての情報共有と点検を行い、コースの担当教員を中心に各自のシラバスの組立てや作成方針、成績評価方針についての点検を継続する。また、入学直後の1年生にくわえて、専門科目の履修が増える2年生を中心に、各科目の中では担当教員から成績評価の方法や目的について現在よりさらに丁寧に説明を行うこと、また学生全体に対しては学年初めのオリエンテーションにて、大学での成績評価の方法や目的について、より丁寧に説明を行う。
- ②受講者数の少ない科目については、受講者数には科目の時間割上の配置の影響も大きいと考えられるため、設定可能な範囲で時間割上の配置を工夫するとともに、オリエンテーションなどで科目に関する紹介と履修の奨励を行うこととした。また、2022年度入学生からの新カリキュラムが2024年度には3年度目と完成年度に近づき、1～3年次配当科目の受講者数についての情報が揃い始めるため、受講者数の点検を継続して行い、各科目のカリキュラム上の科目の位置づけや内容の検討を継続して進めていくこととした。

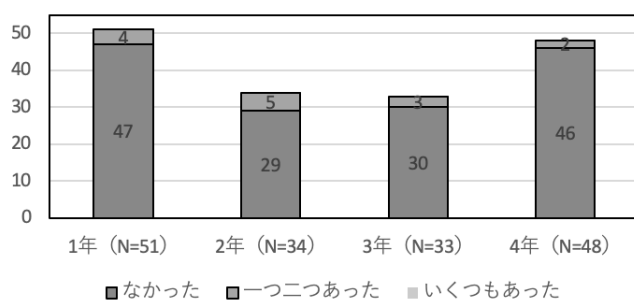
添付資料

- ・地域社会コース成績評価アンケート結果報告
- ・公共社会学科専門教育科目 受講者数及び成績結果状況報告
- ・公共社会学科専門教育科目カリキュラムマップ・公共社会学科（地域社会コース）カリキュラムツリー

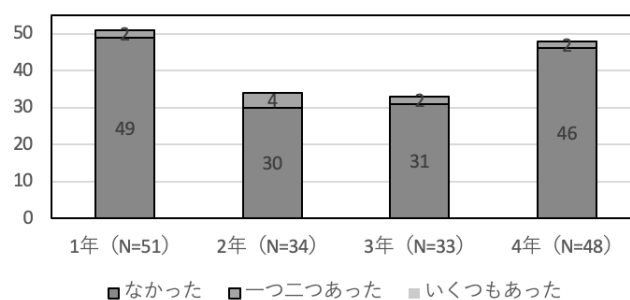
地域社会コース成績評価アンケート結果報告

1.成績評価アンケートの結果

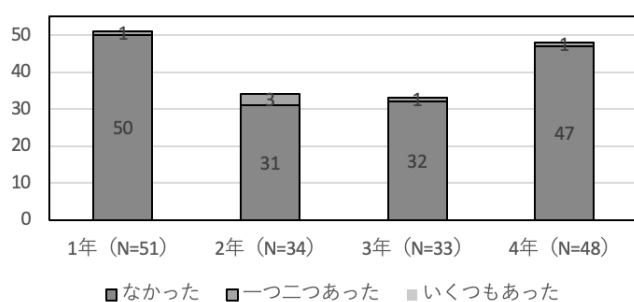
透明性が不足している科目



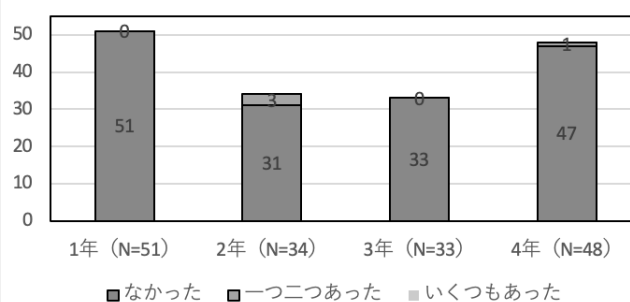
客観性が不足している科目



妥当性が不足している科目



公平性が不足している科目



2.結果について

- 成績評価に関する4項目において、「そのような科目がいくつもあった」という回答は0でした。また、「そのような科目が一つ二つあった」という回答も、各学年で多くても1割代であり、全体的に良好な回答傾向と評価できます。
- 以上、全体的には良好な回答傾向と評価できますが、2年生においては「透明性が不足している科目」「客観性が不足している科目」、また他学年においても「透明性が不足している科目」の「そのような科目が一つ二つあった」の割合が、他項目に比べると相対的に高くなっています。ここから、専門科目の履修が増える2年生を中心に、各科目の中では成績評価の方法や目的について、オリエンテーションなどでは大学での成績評価の方法や目的について、より丁寧に説明を行うなどの工夫が必要になると考えられます。

公共社会学科専門教育科目、関連科目、教科及び教職に関する科目（高校公民・情報、中学社会）
受講者数及び成績結果状況報告

2022年度の公共社会学科の専門教育科目、関連科目、教科及び教職に関する科目（高校公民・情報、中学社会）の各科目の受講者数及び成績結果をお知らせします。

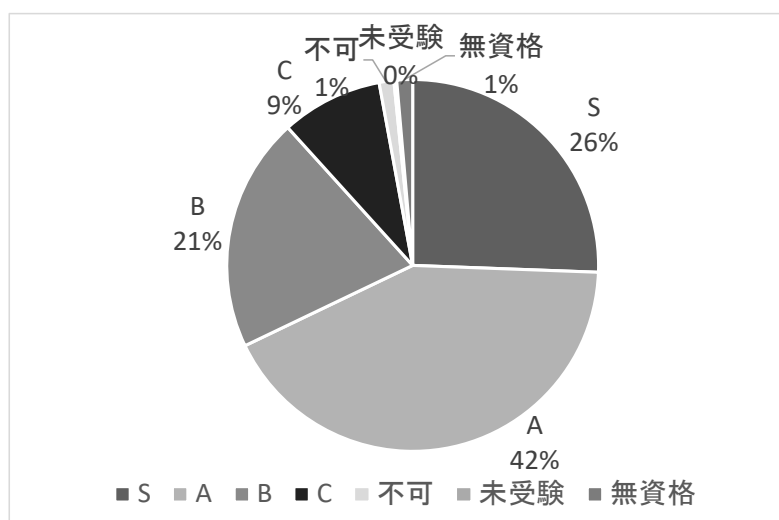
結果について

1. 受講者数が5名未満の科目は「国際社会学 B」「文化人類学 A」「文化人類学 B」です。また、「CSR（企業の社会的責任）論」「地域社会分析法 B」は履修者0でした。科目の必要性や妥当性について確認してください。また多くの受講が望まれる科目である場合、対策等をとられてください。
2. 成績に「不可」が多い科目はありませんでした。
3. 受講者数10名を超える科目において、成績Sが受講者の3分の2を超えていた科目は、「暮らしの経済学」「社会教育論」でした。評価方法や成績評価方針について確認をお願いします。

※本コメントは、問題点を指摘するものではありません。問題がないかを確認し、問題がない場合はこれで妥当であることを説明できるようにしてください。改善すべき点が見いだされた場合には、具体的な対策を立てられてください。

（添付資料）

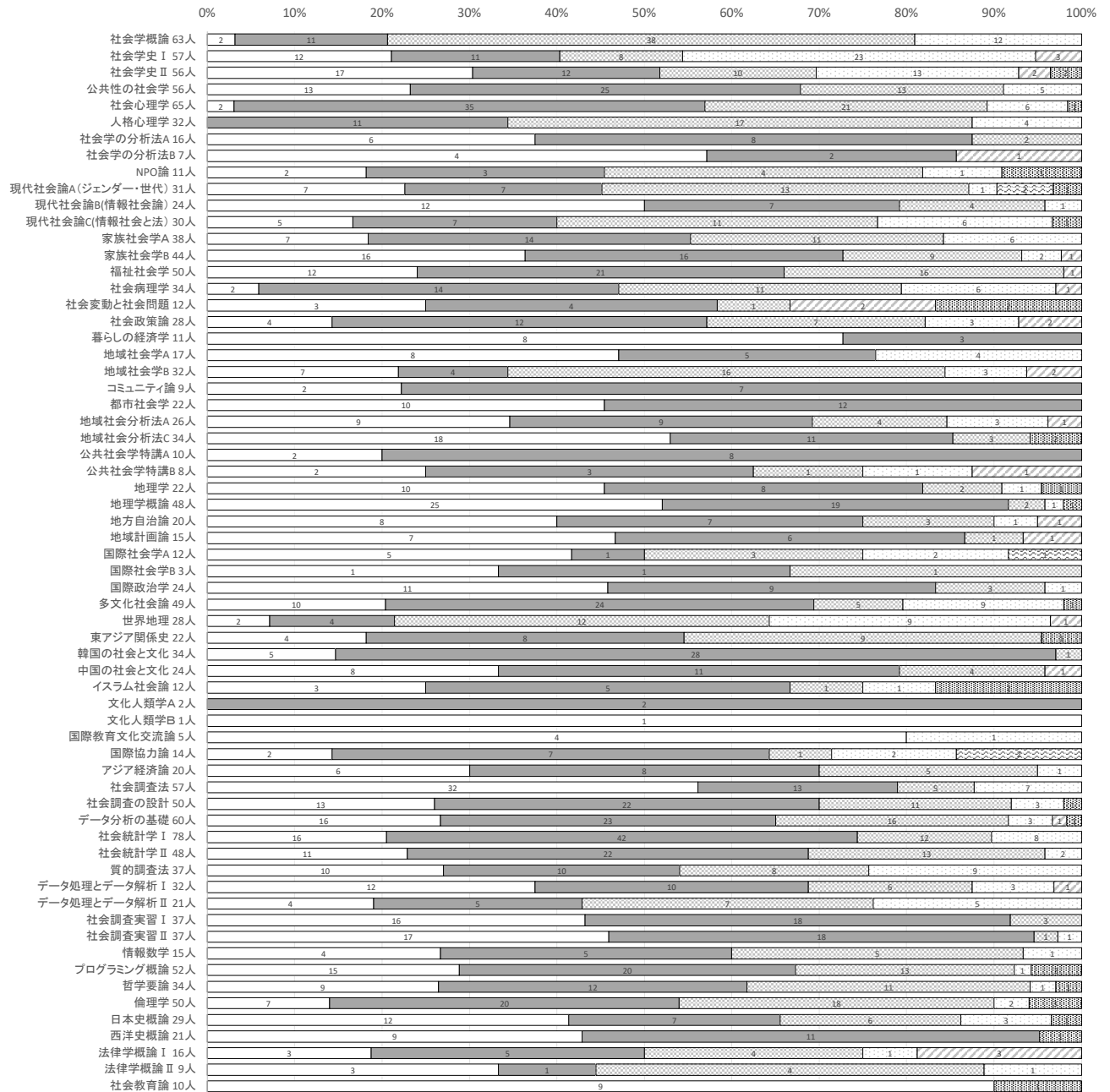
（1）学科別成績分布（公共社会学科専門教育科目、関連科目）



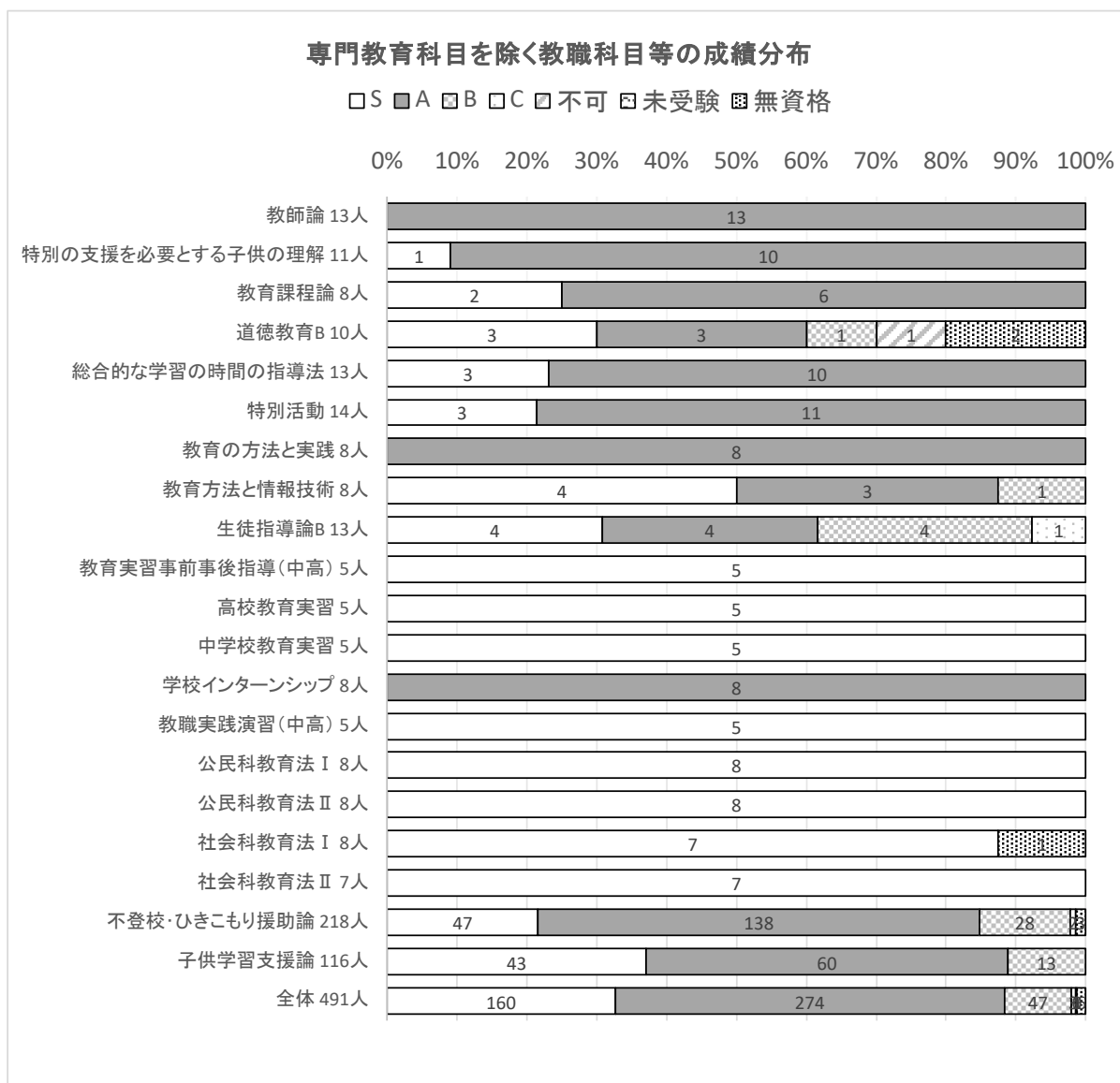
(2) 各授業の成績分布 (公共社会学科専門教育科目、関連科目)

各授業の成績分布

□ S ■ A ▨ B □ C ▩ 不可 ▩ 未受験 ▩ 無資格



(3) 成績分布（各学科の専門教育科目を除く教科及び教職に関する科目（高等学校教諭一種免許状（公民、情報）、中学校教諭一種免許状（社会））



授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期(標準履修年次)				備考	DP1	DP2	DP3	DP4
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次					
公共社会学基礎論	社会学概論	2		講義	2					○		○	
	社会学史Ⅰ	2		講義		2				○			
	社会学史Ⅱ	2		講義		2				○			
	公共性の社会学	2		講義	2					○		○	
	社会政策論		2	講義	2					○		○	
	公共経済学		2	講義			2			○	○	○	○
	社会学の分析法A		2	講義		2				○		○	
	社会学の分析法B		2	講義			2			○		○	
	現代社会論A(ジェンダー・世代)		2	講義		2				○			
	現代社会論B(情報社会論)		2	講義		2				○		○	
	現代社会論C(情報社会と法)		2	講義		2				○		○	
	家族社会学A		2	講義		2				○		○	
	家族社会学B		2	講義		2				○		○	
	福祉社会学		2	講義			2			○		○	
	社会病理学		2	講義		2				○		○	
	社会変動と社会問題		2	講義			2			○		○	
	集合行動論		2	講義			2			○		○	
	仕事の経済学		2	講義		2				○	○	○	
	暮らしの経済学		2	講義		2				○	○	○	
	CSR(企業の社会的責任)論		2	講義			2			○		○	
社会心理学		2	講義	2									
人格心理学		2	講義	2									
社会調査・情報処理	社会調査法	2		講義	2						○	○	
	社会調査の設計		2	講義		2					○		
	データ分析の基礎		2	講義	2						○	○	
	社会統計学Ⅰ		2	講義		2					○	○	
	社会統計学Ⅱ		2	講義		2					○	○	
	質的調査法		2	講義		2				○		○	○
	データ処理とデータ解析Ⅰ		1	演習			1			○	○	○	
	データ処理とデータ解析Ⅱ		1	演習			1			○	○	○	
	社会調査実習Ⅰ		2	実習		2				○		○	○
	社会調査実習Ⅱ		2	実習		2				○		○	○
情報数学		2	講義		2				○	○	○		
プログラミング概論		2	講義		2				○	○	○		
地域社会ネットワーク	地域社会学A		2	講義	2					○		○	
	地域社会学B		2	講義			2			○		○	
	コミュニティ論		2	講義		2				○		○	○
	都市社会学		2	講義		2					○	○	○
	地域社会分析法A		2	講義			2			○	○	○	○
	地域社会分析法B		2	講義			2			○		○	
	地域社会分析法C		2	講義			2				○	○	
	公共社会学特講A		2	講義			2				○	○	○
	公共社会学特講B		2	講義			2			○		○	
	地理学		2	講義	2					○	○	○	
	地理学概論		2	講義		2				○	○	○	
	地方自治論		2	講義		2				○	○	○	
地域計画論		2	講義			2			○		○		

授業科目の区分と科目名	単位		授業方法	開設時期(標準履修年次)				備考	DP1	DP2	DP3	DP4
	必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次					
アジア国際共生		2	講義		2				○		○	
		2	講義		2				○		○	
		2	講義	2					○		○	○
		2	講義		2				○		○	○
		2	講義	2					○	○	○	○
		2	講義		2				○		○	○
		2	講義	2					○	○	○	○
		2	講義	2					○		○	○
		2	講義			2			○		○	
		2	講義			2			○	○	○	
		2	講義			2			○		○	○
		2	講義	2					○		○	○
		2	講義			2			○		○	○
		2	講義			2			○		○	○
	関連科目		2	演習			2			○		○
		2	講義			2			○		○	
		2	講義		2				○		○	○
		2	講義		2				○		○	
		2	講義			2			○		○	
		2	講義			2			○		○	
		2	講義			2				○	○	
		2	講義	2								
		2	講義		2							
		2	講義			2						
		2	講義	2					○	○	○	○
		2	講義		2							
		2	講義	2								
		2	講義			2						
		2	講義	2								
		2	講義			2						
		2	講義			2						
		2	講義			2						
		1	演習			1						
		2	講義		2							
	2	講義		2								
	1	演習			1							
	2	講義		2								
	2	講義			2							
	2	講義			2							
	2	講義			2							
	1	演習			1				○	○	○	○
	1	演習			1				○	○	○	○
	6	演習				6			○	○	○	○

色付きは他学科・他コース科目 *は総合人間社会コースの科目。

<p>DP 1 ○現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。 ○社会学を中心とする社会科学の専門知識をもとに、社会的現象の歴史的背景や多元性、異なる文化や価値観を理解できる。</p>	<p>DP 2 ○現代において求められる汎用的技能を身につけている。 ○先行研究や各種の資料を適切に収集する技能、社会的現象を適切に観察、調査、分析する技能を身につけている。</p>	<p>DP 3 ○現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。 ○人間・社会の諸問題について、根拠に基づいて公共性の観点から論理的に整理することができる。 ○人間・社会の諸問題について、自らの考えを適切に説明することができる。</p>	<p>DP 4 ○異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。 ○人間・社会の諸問題への深い関心のもと、問題解決に向け、主体的に学習を続ける力を身につけている。 ○人間・社会の諸問題について多様性を尊重し、多様な人々と協働することができる。</p>
--	---	--	---

3・4年次



3年次

2年次

1年次

1年次

<p>全学共通科目 DP1・2・3・4 教養科目： 人文科学／社会科学／自然科学／総合科目 （社会科学のうち、学科の必修） 社会学A 社会学B</p>	<p>基礎科目： 必須外国語／選択外国語／情報処理／健康科学／基礎ゼミ／発展ゼミ</p>
--	---

<p>全学横断型科目 DP1・2・3・4</p>

凡例

学科必修科目	学科選択必修科目	その他は選択科目
総合人間社会コース専門教育科目		

公共社会学科専門教育科目 カリキュラムマップ

新カリキュラム版

	授業科目の区分と科目名	単位		授業 方法	開講 年次	DP1	DP2	DP3	DP4	備考
		必修	選択							
基幹科目	社会学概論	2		講義	1	○		○		
	社会学史Ⅰ	2		講義	2	○				
	社会学史Ⅱ	2		講義	2	○				
	公共性の社会学	2		講義	1	○		○		
	社会学の分析法A		2	講義	2	○		○		
	社会学の分析法B		2	講義	3	○		○		
	集合行動論		2	講義	3	○		○		
	CSR（企業の社会的責任）論		2	講義	3	○		○		
	NPO論		2	講義	3	○		○	○	
	社会心理学		2	講義	1					人間形成学科開設科目
	人格心理学		2	講義	1					人間形成学科開設科目
	公共社会学研究Ⅰ	1		演習	3	○	○	○	○	
	公共社会学研究Ⅱ	1		演習	3	○	○	○	○	
卒業論文	6		演習	4	○	○	○	○		
現代社会課題	現代社会論A（ジェンダー・世代）		2	講義	2	○				
	現代社会論B（情報社会論）		2	講義	2	○		○		
	現代社会論C（情報社会と法）		2	講義	2	○		○		
	家族社会学A		2	講義	2	○		○		
	家族社会学B		2	講義	2	○		○		
	福祉社会学		2	講義	3	○		○		
	社会病理学		2	講義	2	○		○		
	社会変動と社会問題		2	講義	3	○		○		
	社会政策論		2	講義	1	○		○		
	公共経済学		2	講義	3	○	○	○	○	
	仕事の経済学		2	講義	2	○	○	○		
	暮らしの経済学		2	講義	2	○	○	○		
	地域社会ネットワーク	地域社会学		2	講義	1	○		○	
環境と災害の社会学			2	講義	3	○		○		
コミュニティ論			2	講義	2	○		○	○	
都市社会学			2	講義	2		○	○	○	
地域社会分析法A			2	講義	3	○	○	○	○	
地域社会分析法B			2	講義	3	○		○		
地域社会分析法C			2	講義	3		○	○		
公共社会学特講A			2	講義	3		○	○	○	
公共社会学特講B			2	講義	3	○		○		
地理学			2	講義	1	○	○	○		
地理学概論			2	講義	2	○	○	○		
地方自治論			2	講義	2	○	○	○		
地域計画論			2	講義	3	○		○		
アジア国際共生	国際社会学A		2	講義	2	○		○		
	国際社会学B		2	講義	2	○		○		
	国際政治学		2	講義	1	○		○	○	
	多文化社会論		2	講義	2	○		○	○	
	世界地理		2	講義	1	○	○	○	○	
	東アジア関係史		2	講義	2	○		○	○	
	韓国の社会と文化		2	講義	1	○	○	○	○	
	中国の社会と文化		2	講義	1	○		○	○	
	イスラム社会論		2	講義	2	○		○		
	文化人類学A		2	講義	3	○		○		
	文化人類学B		2	講義	3	○	○	○		
	国際教育文化交流論		2	講義	3	○		○		
	国際協力論		2	講義	1	○		○	○	
アジア経済論		2	講義	3	○		○	○		

社会調査・情報処理	社会調査法	2	講義	1		○	○			
	データ分析の基礎	2	講義	1		○	○			
	プログラミング概論	2	講義	2	○	○	○			
	社会統計学Ⅰ	2	講義	2		○	○			
	社会統計学Ⅱ		2	講義	2		○	○		
	社会調査の設計		2	講義	2		○			
	質的調査法		2	講義	2		○	○		
	データ処理とデータ解析Ⅰ		1	演習	3	○	○	○		
	データ処理とデータ解析Ⅱ		1	演習	3	○	○	○		
	情報ネットワーク演習		1	演習	2					総合人間社会コース科目、2023年度から開設
	マルチメディア論		2	講義	2					総合人間社会コース科目、2023年度から開設
	地理情報システム論		2	講義	3					総合人間社会コース科目、2024年度から開設
	社会調査実習Ⅰ		2	実習	2	○		○	○	
	社会調査実習Ⅱ		2	実習	2	○		○	○	
関連科目	情報数学		2	講義	2	○	○	○		
	哲学要論		2	講義	3	○		○		
	倫理学		2	講義	3	○		○		
	日本史概論		2	講義	2	○		○	○	
	西洋史概論		2	講義	2	○		○		
	法学概論Ⅰ		2	講義	3	○		○		
	法学概論Ⅱ		2	講義	3	○		○		
	教育社会学		2	講義	3		○	○		
	社会福祉学概論Ⅰ		2	講義	1					社会福祉学科開設科目
	地域福祉論Ⅰ		2	講義	2					社会福祉学科開設科目
	地域福祉論Ⅱ		2	講義	3					社会福祉学科開設科目
	教育学概論B		2	講義	1	○	○	○	○	
	生涯教育論		2	講義	2					人間形成学科開設科目
	社会教育論		2	講義	2					人間形成学科開設科目
	対人心理学		2	講義	1					人間形成学科開設科目
	Webデザイン演習		1	演習	2					総合人間社会コース科目
	情報ネットワーク論		2	講義	2					総合人間社会コース科目
	データベース論		2	講義	2					総合人間社会コース科目
	プログラミング演習		2	演習	3					総合人間社会コース科目
	情報検索システム論		2	講義	3					総合人間社会コース科目
	問題解決演習		1	演習	2					総合人間社会コース科目
	人的資源管理論		2	講義	2					総合人間社会コース科目
	キャリア論		2	講義	3					総合人間社会コース科目
	組織マネジメント		2	講義	3					総合人間社会コース科目
ビジネス倫理		2	講義	3					総合人間社会コース科目	
個人情報法制		2	講義	3					総合人間社会コース科目	

色付きは他学科・他コース科目

公共社会学科 カリキュラムツリー

○:必修科目 ★:1・2年生選択必修科目 ☆:3年生選択必修科目 ()は再掲

新カリキュラム版

領域	区分1	区分2	1年	2年	3年	4年		
基幹科目	社会学の基礎・公共性の考え方を学ぶ	社会学(必修コア)	○社会学概論 ○社会学A(教養科目)	○社会学B(教養科目)	○社会学Ⅰ ○社会学Ⅱ			
		公共性・組織・社会心理	○公共性の社会学 人格心理学 (対人心理学)	社会心理学 (対人心理学)	社会学の分析法A	☆NPO論 CSR(企業の社会的責任)論	社会学の分析法B 集合行動論	
現代社会課題	社会現象を多角的に捉え分析する	公共性の観点から課題を調査・分析し、報告する技法を学ぶ	○(教養演習)		(社会調査実習Ⅰ) ★家族社会学A 現代社会学A(ジェンダー、世代)	(社会調査実習Ⅱ) 家族社会学B 社会学の分析法A ジェンダー論(教養科目)	○公共社会学研究Ⅰ ○公共社会学研究Ⅱ ○卒業論文	
		家族・ジェンダー			★社会学A 社会学B	(地域社会学分析法A) 社会学の分析法A	(地域社会学分析法B) ★福祉社会学 ★社会変動と社会問題	
		福祉・社会問題			★社会学B 社会学C(情報社会学)	社会学の分析法A 社会学C(情報社会学と法)		
		情報社会			★社会学C 社会学D			
地域社会ネットワーク	地域を社会的に捉え分析する 地域を行政学・地理学的に捉え分析する	経済・社会政策	社会学政策論	経済学(教養科目)	★暮らしの経済学	仕事の経済学 (アジア経済論)	公共経済学	
		地域・都市	★地域社会学		都市社会学	コミュニティ論	★地域社会学分析法A 社会学の分析法B 社会学の分析法C	環境と災害の社会学 公共社会学特講A 公共社会学特講B 地域計画論 (地理情報システム論)
		特講						
アジア国際共生	アジアを軸にグローバルな視点で社会の現状と課題を考える	自治・住民参加			★地方自治論		地域社会学特講A 地域計画論	
		地理学	地理学	(世界地理)	★地理学概論		★地域社会学分析法C	
		社会と開発	国際協力論		★国際社会学A	国際社会学B		
社会調査・情報処理	社会調査・情報処理の基礎と方法を学ぶ(社会調査士・上級情報処理士)	政治・経済	★国際政治学	政治学(教養科目)		☆アジア経済論		
		文化と歴史	韓国の社会と文化 中国の社会と文化		★多文化社会学論	東アジア関係史	国際教育文化交流論	
		人類学・宗教・地誌	世界地理		イスラム社会学論	宗教学(教養科目)	文化人類学A 文化人類学B	
		社会調査総論	○社会調査法		★社会調査の設計			
関連科目	いろいろな見方・考え方を学ぶ	統計・データ解析	○データ分析の基礎	統計学(教養科目)	○社会統計学Ⅰ	社会統計学Ⅱ	☆データ処理とデータ解析Ⅰ ☆データ処理とデータ解析Ⅱ	
		質的調査			質的調査法	(文化人類学B)		
		社会調査実習			社会調査実習Ⅰ	社会調査実習Ⅱ		
教職課程	教職に必要な知識・方法を学ぶ	情報処理	数学概論(教養科目)	情報科学(教養科目)	○プログラミング概論	情報ネットワーク演習	地理情報システム論	
		歴史・哲学・倫理	哲学(教養科目)		日本史概論	西洋史概論 / (東アジア関係史)	倫理学	哲学要論
		教育・心理	教育学概論B	対人心理学	社会学教育論	生涯教育論	教育社会学	
		法律	法学(教養科目)	憲法(教養科目)	(現代社会学C(情報社会学と法))	法律学概論Ⅰ	法律学概論Ⅱ	
基礎教育科目	学びの基礎をつくる	社会福祉	社会福祉学概論Ⅰ	(社会学政策論)	地域福祉論Ⅰ	地域福祉論Ⅱ		
		データサイエンス・プログラム			Webデザイン演習	情報ネットワーク論	プログラミング演習	情報検索システム論
基礎教育科目	学びの基礎をつくる	キャリアマネジメント・プログラム			データベース論	キャリア論	組織マネジメント	
					問題解決演習	キャリア論	組織マネジメント	
基礎教育科目	学びの基礎をつくる				人的資源管理論	ビジネス倫理	個人情報法制	
教職課程	教職に必要な知識・方法を学ぶ	教育学概論B			教育史	教育課程論	教育の方法と実践	
		教師論			特別の実践を必要とする子供の理解	(教育社会学)	教育方法と情報技術	
					総合的な学習の時間と指導法	道徳教育B	キャリア論(進路指導)	
					特別活動	生徒指導論B	教育相談	
							情報と職業	
		発達心理学Ⅰ-A			教育心理学概論	社会科教育法Ⅰ	社会科教育法Ⅱ	
						公民科教育法Ⅰ	公民科教育法Ⅱ	
						情報科教育法Ⅰ	情報科教育法Ⅱ	
							教育実習事前事後指導(中高)	教職実践演習(中高)
							高校教育実習	中学校教育実習
				学校インターンシップ				



DP1	現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。
	社会学を中心とする社会科学の専門知識をもとに、社会的事象の歴史的背景や多元性、異なる文化や価値観を理解できる。
DP2	現代において求められる汎用的技能を身につけている。
	先行研究や各種の資料を適切に収集する技能、社会的事象を適切に観察、調査、分析する技能を身につけている。
DP3	現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。
	人間・社会の諸問題について、根拠に基づいて公共性の観点から論理的に整理することができる。
	人間・社会の諸問題について、自らの考えを適切に説明することができる。
DP4	異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。
	人間・社会の諸問題への深い関心のもと、問題解決に向け、主体的に学習を続ける力を身につけている。
	人間・社会の諸問題について多様性を尊重し、多様な人々と協働することができる。